

ある日、東の空に虹がかかっていた。

特に急ぐ用事もなかったのでしばらくじっと見ている事にした。

向こうの方で、ゆっくりと形を変えながら漂う雲が7色を通過していく。

雲の後ろにある空色も、雲のいないところで色付く。

その時、天然染料と合成染料の性質について説明されたように感じた。

土から生えるもの

That comes from the earth, that sleeps under there.

土に眠るもの

堤 加奈恵

tsutsumi kanae

2024年5月25日[土] — 6月16日[日] 13時00分から19時00分まで 水・木休廊

G a l l e r y P A R C  
GRAND MARBLE

あらゆる布は、それを作するために蓄積された無数の技術や方法とともに、今日の日常生活のなかに“あたりまえ”に存在している。

私は布に、変化し繰り返された手作業と奮闘の一片を垣間見るとともに、現存する産地にて継がれている技法を見聞きし、手で做うことでそれを知りたいと考えている。

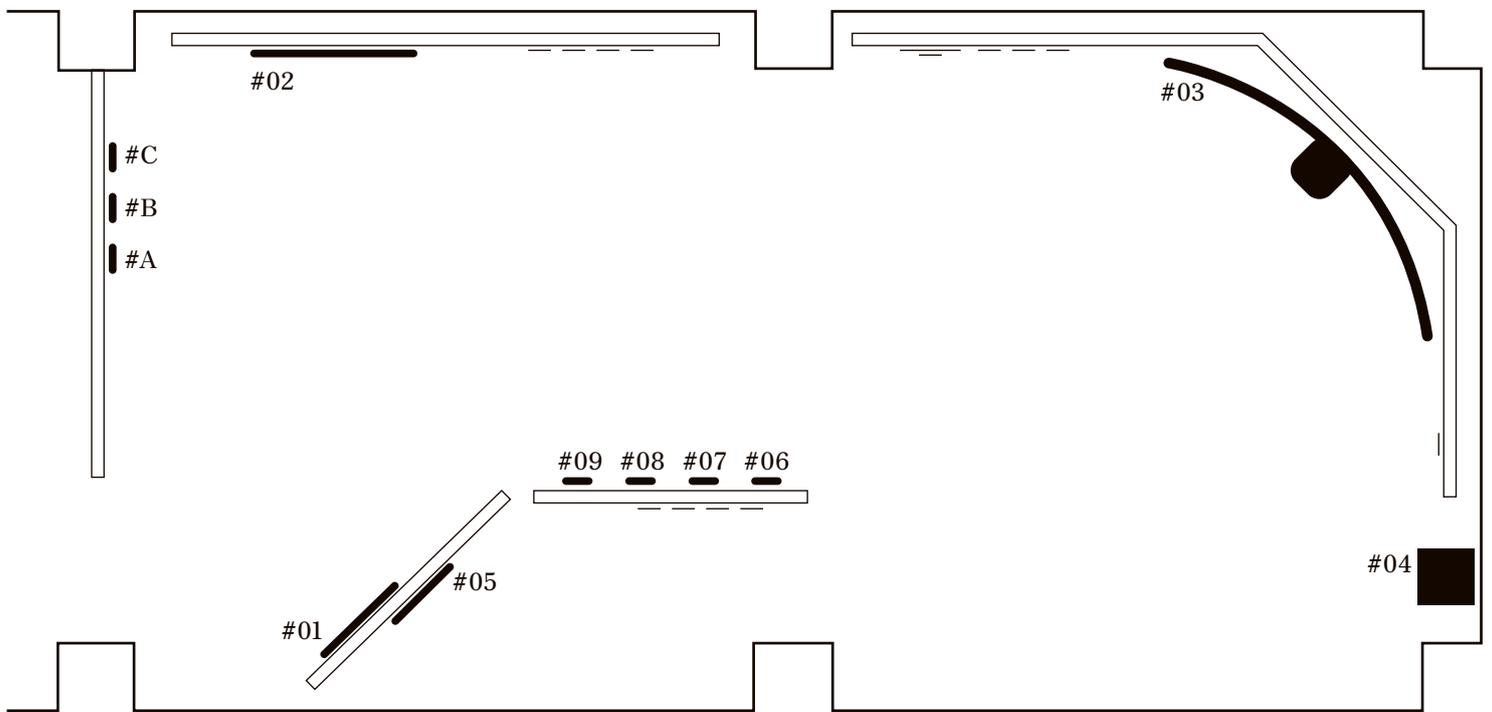
また、私は染・織において色彩を重要な要素と捉え、一見して“単なるそれ”にしか見えない景色に潜む深みを、糸に色を内在させることのできる染色と、糸と糸の重なりから現れる織り色によって表現している。

この二つの興味への探究とその過程で遭遇する感情や事象をテーマに、染織と鑑賞者を視覚的に媒介する作品制作を試みている。

堤 加奈恵

堤 加奈恵 1986年・京都市生まれ、2009年・京都精華大学 芸術学部 デザイン学科 テキスタイル分野 卒業、2011年・同大学 大学院 芸術研究科 染織領域 修了。  
おもな展覧会に、2023年・「京都府新鋭選抜展」(京都文化博物館)、2022年・個展「Pretend play always touches my inner part 森の人になりたかった」(堀川新文化ビルテング / 京都)、2020年・「ラプソディー」京都芸術センター支援事業(GALLERY GALLERY / 京都)・「テキスタイルの未来形」(宝塚芸術文化センター / 兵庫)、2019年・「HIKARI NO KEHAI」(LOKAL + ギャラリー / ヘルシンキ、フィンランド)、2018年・「Weaving New Worlds:Contemporary Tapestry」(ウィリアムモリスギャラリー / ロンドン、イギリス)、2017年・「Forest of Grete!」(同時代ギャラリー / 京都)、2016年・「新鋭選抜展 琳派400年記念展」(京都文化博物館 / 京都)、2015年・「なまえのない色」(GALLERY GALLERY EX / 京都)、2014年・「ori-rhythm3」(京都芸術センター / 京都)、2013年・「TAPESTRY NOVA」(Meno Park / カウナス、リトアニア)・「moss work」(GALLERY GALLERY EX / 京都)





#01

## Prologue

それぞれ、茜、柘榴(ざくろ)、ログウッド、ラック、藍を使ってグラデーションに染め、さらに直接染料という合成染料で青・赤・黄を重ねて染めている。織り技法は平織り、もこもこ部分はノッティングという絨毯を作る技法でつくっている。オモテ面にある短文になぞらえると、上部の植物染料による色の箇所が空の色、染まっていない生成りの部分が雲の色、3色が虹。

2024

ウール原毛、ラミー麻、茜、柘榴、ログウッド、ラック、藍、明礬、直接染料  
raw wool fiber, ramie, madder, pomegranate, logwood, lac, indigo, alum, direct dye  
h450×w1200×d100mm

#02

## 時雨のあとの

after sun shower

《Prologue》をさらに複雑にしたもの。左上のベースがログウッド、右下のベースが茜、右上と左下が生成り(無染色)、真ん中の土俵はおまじないで、ポリエステルで金糸に似せて作られたメタリック糸を使用。

2024

ウール原毛、ラミー麻、ログウッド、茜、明礬、直接染料、メタリック糸  
raw wool fiber, ramie, logwood, madder, alum, direct dye, metallic thread  
h1280×1400×d80mm

#03

## 土から生えるもの 土に眠るもの

That comes from the earth, that sleeps under there

オモテ面にの短文にもある「虹」を表現した作品。左から茜、ラック、蘇芳(すおう)、柘榴(ざくろ)、漆でそれぞれグラデーションに染め、その上から直接染料でチェックを染めている。椅子になっているのは、布であることを忘れないため。ウールは装飾。

2024

ウール原毛、ラミー麻、直接染料、茜、ラック、蘇芳、石榴、漆、明礬  
raw wool fiber, ramie, direct dye, madder, lac, pomegranate, lacquer, alum  
h280×w3680×d880mm  
椅子張り協力:OTUS (Upholstery by OTUS)

#04

## 「織る」と「編む」

Weaving and knitting

2023

ラミー麻、ログウッド、明礬、直接染料  
ramie, logwood, alum, direct dye  
h2500×w570×d450mm

#05

## 引力 / 重力

The moon's gravity and the earth's gravity

ラック、ログウッド、茜、ざくろの4種類の染料でベースを染めて、その後、チェックの色を直接染料で染めた布とメタリック糸で作られた月の作品。

2024

ラミー麻、直接染料、ラック、ログウッド、茜、柘榴、メタリック糸、スチレンボード、ウール原毛  
ramie, direct dye, lac, logwood, madder, pomegranate, metallic thread, styrene board, raw wool fiber  
h300×w440mm

#06～#09の作品は、手法としては大きな作品群と同様に、天然染料と合成染料を使って染め分けて織ったもので、「包む」などの布本来の用途を作品に取り入れている。

#06

## 無題

untitled

2024

ウール原毛、ラミー麻、五倍子、鉄、直接染料  
raw wool fiber, ramie, callunts, iron, direct dye  
h480×w90×d40mm

#07

## northern

2024

ラミー麻、反応染料、蘇芳、明礬、メタリック糸、綿  
ramie, reactive dye, sappanwood, alum, metallic thread, cotton  
h210×w125×d10mm

#08

## 霞

mist

2024

ラミー麻、茜、明礬、直接染料  
ramie, madder, alum, direct dye  
h130×130×45mm

#09

## あの頃のあれ

it

2024

ラミー麻、ラック、明礬、直接染料、木箱  
ramie, lac, alum, direct dye, wooden box  
h480×190×70mm

ある架空の村の家々のキッチンにいるだろう神様(愛宕さんのお札のような感じ)。ウール原毛と織物のミックスさせた作品で、真ん中の作品はウールをノッティングし、両端はウールを縮絨させる方法を用いている。

#A

## LAULAT of Textile “ T ”

2018

ウール原毛、ジュート麻、レーヨン、直接染料、酸性染料  
raw wool fiber, jute, rayon, direct dye, acid dye  
h500×280mm

#B

## LAULAT of Textile “ G ”

2018

ウール原毛、ジュート麻、ナイロン、酸性染料、木棒  
raw wool fiber, jute, nylon, acid dye, wooden stick  
h385×w250×d30mm

#C

## LAULAT of Textile “ R ”

2018

ウール原毛、ウール糸、リネン、酸性染料、メタリック糸  
raw wool fiber, wool yarn, linen, acid dye, metallic thread  
h390×w85mm